

「伝統」  
鴨居の真鯛釣り  
「新風」  
Traditional and Modern



▲当日は鴨居沖の水深70メートル前後を狙った



▶2キロ級も何枚上がった



▶今後は水深50〜60メートルの浅場で釣れるようになる

●東京湾のタイラバは春の好期を迎えている

三浦半島鴨居大室港出船  
鴨居伝統のマダイ釣り  
タイラバ時代に  
変わっても好調継続

撮影●伊井泰洋



▲10時のコーヒーと昼の味噌汁サービスは健在



▲もちろんエビエサでの釣りもOK



◀長年鴨居のマダイ釣りを支えてきた大船長の房丸(左)は廃船予定とか

基本カラーは  
オレンジと赤



▲シンプルなタイラバで釣る人が多い



▲ヘッドは80〜100グラムだが、潮が速いので100グラム推奨

タイラバヘッドはオレンジと赤(ワインレッド)の基本カラーを用意しておこう。それ以外の色では金、オレンジ金などのメタリックカラーを使っている人が多く見られる。この日はほとんどの人がオレンジを使っている、そのせいかマダイが食ってきたのはオレンジだけだった。  
ネクタイもオレンジと赤がベースになり、1〜2本を付ける。2本ネクタイにする場合はストライプカラーや黒を交ぜるといいだろう。形状はストレート、カーリーと替えて試してみよう。また、東京湾ではスカートは付けられないのが主流で、この日もほぼ全員がスカートレスのタイラバだった。



▲当日のトップは4枚

三浦半島鴨居のマダイといえばエビエサを使ったテンビン釣り、通称「鴨居式のエビタイ」として知られてきた。そんな伝統のマダイ釣りを継承してきた船宿が鴨居大室港の房丸。昨年末に大船長の高橋房男船長が勇退したことを受け、現在は息子の正船長がマダイ船の舵を握っている。近年は生きエビの入手が難しくなったことなどもありタイラバのファンが増えてはいるが、その釣れ具合は健在。3月上旬の取材日は鴨居沖の水深70メートル前後の深場を攻めて最大2.8キロを含め船中14枚と好調だった。時代は変わっても、伝統の釣りはいつまでも続いてほしい。(詳細は50ページ参照)



●スピニングタックルで釣る人もいる



●三浦半島鴨居大室港・房丸 高橋 正船長